愛知県立大学における精神保健の現状と課題（4）
―性別による健康調査カード(UPI)データの分析―

中　藤　　淳

【目的】

愛知県立大学では、精神保健上さまざまな問題をもつ学生が増え、それにより休学・退学する事例が最近多く認められる。こうした学生には早期の対応が求められ、そのための学生相談を行っている。

筆者はこれまでに、随時相談で得られたデータ(中藤、2002)や、1995年から導入した健康調査カード(University Personality Inventory : UPI)による１年生(新入生)のデータから『1995年から2004年までの10年間にわたる新入生の精神保健上の特徴としては、1995年から1998年までの４年間と1999年から2004年までの６年間との間に顕著な差のあることが判明した。すなわち、前者の新入生が「気分が明るく、おおむね体の調子はよい。しかし、時として人を傷つけるのではないかと気になる」を基調とし、「いつも活動的であり、よく他人に好かれる」と、自分を肯定的に受け止めているのに対し、後者の新入生は「首筋や肩がこり、気疲れする。しかも、気分に波がありすぎる」を基調とし、「人を傷つけるのではないかと気になり、ものごとに自信がもてない」と自分を否定的に受け止めている。また、後者では心理的な否定感はもとより、身体的な否定感が際立ってきている』との結果を得た(中藤、2004)。

さらに、在学生のデータから『1995年から1998年までの４年間における１年生(新入生)の精神保健の傾向および特徴を指し示す項目は、一定の規則性を示しながら1999年から2004年までの６年間の水準にまで減少することが判明した。そして、彼らの精神保健の傾向および特徴は、１年生から４年生まで一貫して維持されるのではなく、その程度は年度が進むに伴って減少する。また、学年が進むに伴ってそれが顕著になることを示唆している。他方、1999年から2004年までの６年間における１年生のそれは、変動が少なく、安定している』と

いう興味深い結果を得た(中藤、2005)。

UPIのデータは、1995年１年生の354名からはじまり2005年１年生の653名まで11年間にわたって数多く、しかも各年度の学生もそれぞれ異なっている。従って、データの分布も多岐にわたり、そこに規則性があるなどとは予想できなかったが、結果はそれに反するものであった。

このことは既に指摘したように極めて興味深く、それが導き出された要因を探ることが求められる。また、こうした結果が、本学学生のみに当てはまるのか、本学学生を含めた現代の若者一般に当てはまるのか、といった視点も重要である。

本論文では、前回の在学生データを性別の要因から分析し、さらに検討・考察を進める。

表１．UPI項目とその内容

項目	内　容	項目	内　容
1	食欲がない	38	ものごとに自信がもてない
2	吐気、胸やけ、腹痛がある	39	何事もためらいがちである
3	わけもなく便秘や下痢をしやすい	40	他人にわるくとられやすい
4	動悸や脈が気になる	41	他人を信じられない
5	いつも体の調子がよい	42	気をまわしすぎる
6	不平や不満が多い	43	つきあいが嫌いである
7	親が期待しすぎる	44	ひけ目を感じる
8	今まで自分や家庭は不幸である	45	とりこし苦労をする
9	将来のことを心配しすぎる	46	体がだるい
10	人に会いたくない	47	気にすると冷汗が出やすい
11	自分が自分でない感じがする	48	めまいや立ちくらみがする
12	やる気が出てこない	49	気を失ったり、ひきつけたりする
13	悲観的になる	50	よく他人に好かれる
14	考えがまとまらない	51	こだわりすぎる
15	気分に波がありすぎる	52	自分のやったことを、確かめずにはいられない
16	不眠がちである	53	汚れが気になって困る
17	頭痛がする	54	つまらぬ考えが頭から離れない
18	首筋や肩がこる	55	自分がへんな匂いを出しているのではないか気になる
19	胸が痛んだり、しめつけられる	56	他人に陰口をいわれる
20	いつも活動的である	57	周囲の人が気になって困る
21	気が小さすぎる	58	変な目で見られているような気がする
22	気疲れする	59	他人に相手にされない
23	いらいらする	60	気持ちが傷つけられやすい
24	おこりっぽい	61	今までに体重が極端に変動したことがある
25	死にたくなる	62	のどに不快感がある
26	何事も生き生きと感じられない	63	アレルギーで困っている
27	記憶力が低下している	64	食欲がコントロールできない
28	根気が続かない	65	つねに冷静である
29	ものごとを自分では決められない	66	完璧にやらないと気がすまない
30	人に頼りすぎる	67	一度落ち込むとなかなか立ち直れない
31	赤面して困る	68	人を傷つけるのではないかと気になる
32	吃ったり、声がふるえる	69	親に反対されたらやりたいことでもあきらめてきた
33	体がほてったり、冷えたりする	70	自分を傷つけたくなる
34	排尿、性器、生理のことが気になる	71	むちゃなことをしたくなる
35	気分が明るい	72	その他、困っているいること、気になっていること、相談したいことがある
36	なんとなく不安である		
37	独りでいると、落ちつかない	73	今すぐ話したいことがある

【方法】

UPIは精神保健に関する71項目とその他の２項目の計73項目から構成され(表１)、「最近１年位の間に、ときどき感じたり、経験したことのある」項目にチェックすることが求められる。本論文では、こうして得たUPIのデータを性別の要因から分析する。

【結果および考察】

UPIが実施された1995年から2004年までの各学年(太枠で囲む)および、その学年の男性と女性のUPI上位10項目の在学期間内推移を表２に示す。表２の内、1995年から2002年までは１年生から４年生までの在学期間全ての、2003年は１年生から３年生までの、2004年は１年生から２年生までの、推移である。なお、1995年は、残念ながら１年生のデータの一部が欠けているので性別の欄は空白とした。

学年の横の数値は回答者数を表す。たとえば、1995年の１年生は354名が回答し、彼らがチェック(肯定)したUPI項目は上位から35)５)68)・・・の順であり、それぞれ354名の60%、54%、44%を占め、彼らが２年生になると359名が回答し、チェック(肯定)した項目は上位から35)５)18)の順であり、それぞれ58%、48%、38%を占めることを示す。また、それに続く二つの欄には２年生359名の性別ごとの結果を示した。すなわち、はじめの欄には男性45名の結果で、彼らがチェックした項目は上位から15)45)52)の順であり、それぞれ44%、44%、40%を占めることを示す。また、その次の欄は女性314名の結果である。

また、表２からも分かるように1995年から1998年までの４年間の１年生の40%以上が意識もしくは自覚(肯定)している35)気分が明るい、５)いつも体の調子がよい、68)人を傷つけるのではないかと気になる、の上位３項目、とりわけ50%以上を示している項目35)と５)は、1995年から1998年まで４年間にわたる１年生の精神保健上の基調を示唆する項目である。従って、それら３項目には前回と同様に下線を敷いて示す。

さらに、筆者は1999年から2004年までの６年間における１年生と比較し、「いつも活動的であり、よく他人に好かれる」と意識もしくは自覚している点も

1995年から1998年までの４年間における１年生の精神保健の特徴であるとした。そこで、その指標である20)いつも活動的である、50)よく他人に好かれる、の２項目を斜体で示す。

表２．UPI上位10項目の在学期間内推移

1995年

1年 354名		男		女		2年 359名		男 45名		女 314名		3年 305名		男 43名		女 262名		4年 263名		男 37名		女 226名	
項目	%	項目	%	項目	%	項目	%	項目	%	項目	%	項目	%	項目	%	項目	%	項目	%	項目	%	項目	%
35	60					35	58	15	44	35	61	35	53	28	47	35	56	5	61	5	59	5	62
5	54					5	48	45	44	5	50	5	52	5	42	5	54	35	57	*20*	49	35	59
68	44					18	38	52	40	18	40	*20*	40	6	42	18	43	18	40	35	46	18	44
18	41					15	36	5	38	27	36	18	40	27	40	*20*	42	*50*	37	*50*	38	*50*	37
22	41					27	36	28	38	22	36	15	33	52	40	15	34	65	33	28	35	65	33
20	40					22	35	35	38	*20*	35	27	32	35	35	22	32	*20*	30	15	32	27	31
28	38					*20*	35	39	33	15	35	22	32	45	35	27	31	27	30	12	30	22	27
52	36					68	33	68	33	68	33	28	30	15	33	68	31	22	27	36	30	20	27
15	34					28	33	6	31	28	32	68	29	13	30	*50*	29	28	25	65	30	48	25
50	33					23	31	12	31	23	31	*50*	29	*20*	30	28	28	36	25	6	27	*36*	24

1996年

1年 499名		男 66名		女 433名		2年 299名		男 30名		女 269名		3年 143名		男 18名		女 125名		4年 372名		男 71名		女 301名	
項目	%	項目	%	項目	%	項目	%	項目	%	項目	%	項目	%	項目	%	項目	%	項目	%	項目	%	項目	%
35	59	35	58	35	59	35	57	35	70	35	55	5	64	52	56	5	66	18	37	27	35	18	38
5	51	5	53	5	51	5	53	5	67	5	51	35	62	5	50	35	65	5	25	18	34	5	26
68	45	*20*	44	68	46	*20*	43	*20*	60	*20*	41	*20*	43	45	50	18	43	27	23	28	30	35	21
20	41	45	39	*20*	41	68	37	68	47	18	36	18	41	*20*	39	*20*	43	35	20	22	25	27	20
18	39	52	39	18	40	18	36	18	40	68	36	*50*	36	22	39	*50*	39	22	19	12	23	*20*	18
22	38	22	38	22	38	*50*	31	27	40	*50*	31	65	27	35	39	27	26	28	18	5	20	36	18
15	36	65	36	15	38	65	31	52	37	65	31	27	25	46	39	65	26	36	18	14	20	48	18
28	36	68	35	28	37	22	31	*50*	33	22	31	22	24	13	33	68	24	12	17	35	18	22	17
50	35	18	32	*50*	36	28	28	15	30	28	28	68	24	14	33	22	22	*20*	17	13	17	12	16
52	32	27	30	48	32	52	28	22	30	52	27	28	22	15	33	28	21	14	17	36	17	14	16

1997年

1年 471名		男 70名		女 401名		2年 77名		男 11名		女 66名		3年 253名		男 28名		女 225名		4年 384名		男 76名		女 308名	
項目	%	項目	%	項目	%	項目	%	項目	%	項目	%	項目	%	項目	%	項目	%	項目	%	項目	%	項目	%
35	58	35	49	35	60	35	58	13	55	35	64	18	45	22	39	18	48	18	41	18	30	18	44
5	54	5	43	5	56	5	47	22	55	18	52	27	30	13	32	35	31	27	22	13	21	27	23
68	42	68	37	18	43	18	47	52	55	5	47	22	28	15	32	27	30	15	19	15	20	48	20
18	39	14	36	68	43	*20*	42	68	55	*20*	45	35	28	27	32	5	29	28	18	28	20	15	19
20	38	22	34	*20*	39	52	36	5	45	52	33	5	26	12	29	22	27	23	17	12	18	23	18
22	36	*20*	33	22	37	22	32	15	45	*50*	32	15	23	23	29	*20*	24	45	17	22	18	28	18
15	35	13	31	15	36	*50*	30	36	45	22	29	23	23	46	29	48	24	48	17	14	17	45	17
28	34	45	31	28	35	15	29	38	45	15	26	48	22	14	25	23	22	13	16	27	17	5	16
45	33	28	30	45	33	68	29	45	45	45	24	*20*	21	18	25	15	22	22	16	45	16	9	16
52	32	36	30	*50*	33	45	27	12	36	48	24	36	21	24	25	36	21	9	16	9	14	22	16

1998年

1年 557名		男 138名		女 419名		2年 505名		男 117名		女 388名		3年 498名		男 107名		女 391名		4年 569名		男 140名		女 429名	
項目	%	項目	%	項目	%	項目	%	項目	%	項目	%	項目	%	項目	%	項目	%	項目	%	項目	%	項目	%
35	62	5	51	35	66	18	35	15	29	18	37	18	34	18	26	18	36	18	31	18	25	18	33
5	59	35	51	5	62	27	22	28	27	5	24	27	20	27	23	27	19	5	22	22	21	5	23
68	43	68	46	18	44	5	21	18	26	27	21	22	19	22	22	22	18	27	17	46	19	27	17
20	41	52	38	*20*	43	22	21	12	24	22	21	15	17	15	21	48	17	22	15	5	18	*20*	15
18	41	*20*	36	68	42	15	21	22	24	35	21	48	16	14	20	15	16	15	13	27	17	35	15
22	34	65	35	*50*	35	28	21	27	23	48	20	5	15	46	19	5	15	*20*	13	9	16	22	13
50	33	54	34	22	35	35	21	23	22	15	19	20	13	52	19	35	14	35	13	45	16	15	13
28	31	18	33	27	32	12	19	52	22	28	19	28	13	6	18	*20*	14	36	12	15	15	36	12
48	31	22	30	28	32	48	18	54	22	12	18	35	13	12	18	28	14	12	12	14	14	12	12
52	30	38	30	48	32	23	18	6	21	23	16	12	13	38	18	12	12	45	11	36	13	48	11

1999年

1年 581名		男 171名		女 410名		2年 511名		男 149名		女 362		3年 501名		男 150		女 351		4年 662名		男 207		女 455	
項目	%	項目	%	項目	%	項目	%	項目	%	項目	%	項目	%	項目	%	項目	%	項目	%	項目	%	項目	%
18	37	15	30	18	45	18	34	18	37	18	39	18	33	18	22	18	37	18	30	5	16	18	37
15	28	13	25	22	30	27	23	15	28	27	25	22	17	5	20	27	18	27	19	9	16	27	22
22	27	52	22	48	28	22	21	22	27	22	21	15	17	22	19	48	17	5	15	18	15	5	15
48	24	68	22	15	27	15	20	48	24	15	20	27	16	15	18	22	17	12	13	*20*	13	12	15
68	24	38	21	27	25	28	17	68	24	28	19	5	16	12	14	15	16	22	13	27	13	22	14
27	22	22	20	68	24	12	17	27	22	48	19	12	14	13	13	17	16	9	12	28	13	17	12
13	21	28	20	28	21	48	16	13	21	12	16	48	14	*20*	13	5	15	*20*	12	15	12	48	12
38	21	45	20	35	21	46	15	38	21	23	16	17	13	27	13	12	14	15	12	35	12	15	11
28	20	6	19	38	21	14	15	28	20	14	16	46	13	28	13	46	13	35	11	22	12	*20*	11
46	20	18	19	46	21	38	15	35	20	38	16	45	12	46	13	45	13	48	10	12	11	35	11

2000年

1年 643名		男 170		女 473		2年 551名		男 139		女 412		3年 595名		男 152		女 443		4年 679名		男 181		女 498	
項目	%	項目	%	項目	%	項目	%	項目	%	項目	%	項目	%	項目	%	項目	%	項目	%	項目	%	項目	%
18	37	18	28	18	41	18	34	15	25	18	40	18	34	27	25	18	38	18	31	9	17	18	37
15	26	27	27	22	27	22	23	27	22	22	24	27	25	12	21	27	24	27	18	15	17	27	19
22	26	15	26	15	26	27	23	12	22	48	23	22	19	46	21	22	21	12	15	27	17	12	15
27	23	14	25	48	25	15	23	22	21	27	23	15	19	28	20	15	19	22	14	36	16	22	14
48	22	52	24	68	23	48	20	13	19	15	22	12	17	18	20	3	17	15	14	22	15	3	13
38	22	13	24	38	21	12	18	28	19	12	17	46	16	9	17	48	16	36	14	12	14	36	13
68	22	28	23	45	21	13	17	38	19	23	16	3	15	13	17	12	15	3	12	18	13	15	13
28	21	38	23	27	21	28	17	14	18	13	16	28	15	15	17	23	14	9	12	38	10	48	12
30	20	39	23	30	21	23	16	16	18	28	16	48	14	16	15	46	14	14	11	46	10	14	12
45	20	22	22	28	20	38	16	18	18	3	16	13	14	22	15	14	13	28	11	28	10	17	12

2001年

1年 589名		男 171		女 418		2年 565名		男 166		女 399		3年 551名		男 172		女 379		4年 673名		男 207		女 466	
項目	%	項目	%	項目	%	項目	%	項目	%	項目	%	項目	%	項目	%	項目	%	項目	%	項目	%	項目	%
18	35	68	26	18	42	18	33	12	23	18	40	18	32	15	20	18	40	18	31	27	17	18	39
48	28	15	22	48	31	15	22	15	22	22	24	27	21	27	18	27	22	27	20	36	15	27	21
22	26	13	21	22	29	27	22	18	18	27	24	15	19	28	16	22	19	12	15	9	15	12	16
15	26	38	21	38	27	22	22	52	18	15	23	22	17	52	16	15	18	9	14	12	14	14	15
38	25	48	21	15	27	12	19	6	17	48	22	28	17	14	15	28	17	22	14	15	14	17	15
68	25	52	20	68	24	48	19	27	17	28	21	14	15	9	14	48	17	15	14	22	14	22	15
27	22	6	20	27	24	28	19	22	16	12	18	23	15	46	14	23	16	36	14	20	13	48	14
13	22	22	19	30	24	23	17	23	15	23	18	12	15	12	13	12	15	14	14	5	12	15	14
30	22	27	19	13	23	38	16	68	15	38	17	36	14	13	13	14	15	17	12	18	12	9	14
28	22	28	19	28	22	13	15	5	14	13	17	46	14	18	13	38	15	48	12	35	12	36	13

2002年

1年 650名		男 190		女 460		2年 570名		男 141		女 429		3年 581名		男 156		女 425		4年 715名		男 209		女 506	
項目	%	項目	%	項目	%	項目	%	項目	%	項目	%	項目	%	項目	%	項目	%	項目	%	項目	%	項目	%
18	36	15	29	18	40	18	33	12	26	18	36	18	29	12	22	18	34	18	31	27	17	18	37
15	26	18	26	48	28	27	24	28	24	27	24	27	20	15	19	27	20	27	18	18	16	27	18
22	26	12	25	22	28	15	23	15	23	15	23	15	18	27	19	22	16	22	15	28	15	22	15
48	24	28	24	15	25	12	21	22	23	22	20	12	17	28	19	12	16	12	14	15	14	12	15
27	24	68	22	27	25	22	21	18	22	48	20	22	16	14	17	15	15	36	13	22	14	48	14
68	23	13	22	68	24	28	19	27	22	12	19	28	15	18	17	28	14	28	13	12	13	36	14
28	22	27	21	30	23	23	18	23	19	23	18	23	15	22	17	48	14	15	13	46	12	9	13
36	22	39	21	36	23	14	17	46	19	28	17	14	13	46	15	14	14	9	12	36	11	*20*	13
13	22	22	21	13	22	46	17	14	18	14	17	46	12	23	13	9	13	*20*	12	5	10	15	12
12	21	6	19	28	21	48	17	6	18	46	17	48	12	6	13	13	13	48	11	*20*	10	28	12

2003年

1年 677名		男 198		女 479		2年 585名		男 148		女 437		3年 545		男 139		女 406	
項目	%	項目	%	項目	%	項目	%	項目	%	項目	%	項目	%	項目	%	項目	%
18	34	15	23	18	39	18	31	12	24	18	37	18	30	18	21	18	33
15	27	18	22	15	28	12	23	27	21	27	23	27	19	12	17	23	20
22	24	52	21	48	28	27	23	15	20	15	23	23	18	27	17	22	19
48	23	28	21	22	27	15	22	22	20	12	22	12	17	16	14	27	19
27	23	12	18	27	26	22	21	6	18	22	21	15	17	46	14	15	18
38	22	14	18	38	24	23	18	14	17	23	19	22	17	15	13	12	17
12	22	22	17	13	24	28	18	28	17	28	18	28	14	28	13	28	15
13	21	38	17	12	23	14	17	46	16	14	17	6	14	23	12	48	15
28	21	46	17	36	23	46	15	18	15	38	16	46	13	6	12	36	15
14	20	27	16	14	21	13	15	23	15	48	16	48	13	14	11	6	15

2004年

1年 663名		男 183		女 480		2年 554名		男 133		女 421	
項目	%	項目	%	項目	%	項目	%	項目	%	項目	%
18	32	12	27	18	37	18	29	46	22	18	34
22	29	15	27	22	33	22	25	15	18	22	27
15	27	52	25	15	28	15	24	22	18	15	26
68	26	68	24	48	28	12	23	27	17	12	25
48	25	36	23	38	26	23	22	12	17	23	24
38	25	13	22	68	26	14	21	14	16	14	23
36	24	28	22	36	25	27	21	23	16	27	23
12	23	38	20	27	22	38	20	38	16	28	22
13	21	18	19	12	21	28	20	28	15	38	22
27	21	27	19	13	21	68	20	30	15	68	22

他方、1999年から2004年までの6年間では、それ以前の4年間では4位以下だった18)首筋や肩がこる、15)気分に波がありすぎる、22)気疲れする、の3項目が上位3位を占めるようになる。ただし、2001年のみ22)の代わりに48)めまいや立ちくらみがする、の項目が2位に位置している。出現頻度は、18)が30%

以上、15)と22)は20%以上を示し、1995年から1998年までの4年間での上位3項目の35) 5)68)が示す40%以上と比較するとその値は半減するが、1999年から2004年までの6年間にわたる1年生の精神保健上の基調を示唆する項目である。従って、それら3項目を太字で示す。

分析は、これまでに得た『1995年から1998年までの4年間における1年生の精神保健の傾向および特徴を指し示す項目は、一定の規則性を示しながら1999年から2004年までの6年間の水準にまで減少することが判明した。そして、彼らの精神保健の傾向および特徴は、1年生から4年生まで一貫して維持されるのではなく、その程度は年度が進むに伴って減少する。また、学年が進むに伴ってそれが顕著になることを示唆している。他方、1999年から2004年までの6年間における1年生のそれは、変動が少なく、安定している』という結果が、性別によりどのような差異が生ずるのかという点を中心に行う。

また、分析に際しては「1995年から1998年までの4年間における学生の精神保健上の基調を示唆する3項目35) 5)68)」と「その4年間における学生の精神保健の特徴を示唆する2項目20)50)」、および「1999年から2004年までの6年間における学生の精神保健の特徴を示唆する3項目18)15)22)」の在学期間内推移の3点から進め、さらにその他の重要だと思われる項目からも行う。ただ表2から明らかなように、回答者数は、1997年の2年生で男性が11名、女性が66名で最も少なく、2002年の4年生で男性が209名、女性が506名で最も多く、その差が大きいことに注意を要する。

1］1995年から1998年までの4年間における学生の精神保健上の基調を示唆する3項目35) 5)68)の在学期間内推移について

3項目とも1年生では1999年以降とは明らかに出現頻度に相違が認められ、一様に高い値を示す。しかも、1999年以降はその値がおよそ20%前後での緩やかな減少傾向を示すのに対し、年度が進むに伴って在学期間内の推移に大きな変化が生じていることが表2でも確認できる。

35)気分が明るい、は1995年では1年生から4年生まで一貫して50%以上の高い出現頻度である。ところが、それは1996年では4年生で、1997年では3年

生で、1998年では2年生で、急激な減少に転じる。特に1997年の4年生と1998年の3年生、4年生では、その値は12%、13%、13%となり、1999年から2004年までの6年間での在学生の示す値とほぼ等しくなる。

これらのデータは、年度が進むに伴って35)の出現頻度が減少すること、また、そこには規則性があり、学年が進むに伴ってそれが顕著になることをクリアに示している。

5)いつも体の調子がよい、も同様の規則性を示す。1995年は1年生から4年生まで一貫して48%以上の高い出現頻度である。ところが、それは1996年では4年生で、1997年では3年生で、1998年では2年生で、急激な減少に転じる。1997年の4年生と1998年の3年生、4年生では、その値は15%、15%、22%となり、35)ほどではないものの1999年から2004年までの6年間における在学生の示す値とほぼ等しくなる。

これらのデータも年度が進むに伴って5)の出現頻度が減少すること、また、学年が進むに伴ってそれが顕著になることをクリアに示している。

しかし、そうした規則性は68)人を傷つけるのではないかと気になる、では35) 5)ほどクリアではない。クリアではないが、1995年と1996年の2年生で出現頻度が逆転している以外は年度が進むに伴って、また学年が進むに伴って68)の出現頻度が減少する点は同様である。

1995年から1998年までの4年間における1年生の精神保健の傾向および特徴は、1999年から2004年までの6年間とは異なり、自分を肯定的に受け止めていると推測される。それらを指し示す3項目35) 5)68)の在学期間内推移は、上述のとおり、一定の規則性を示しながら1999年から2004年までの6年間の水準にまで減少することが判明している。

そこで、まず3項目35) 5)68)の中から35)気分が明るい、の結果を抜粋し(表3)、図示する(図1)。

表3より、男性は1995年の2年生から4年生まで35%以上の出現頻度で、1996年にはそれが3年生まで続き、4年生で18%に減少する。1997年には1年生で49%、2年生で27%であるが、3・4年生で一挙に7%および8%と1/4ほどへ減少する。1998年は1年生で51%、2年生で21%と1997年と同様の傾向

表３．項目35)の在学期間内推移(%)

	男性 1年生	2年生	3年生	4年生	女性 1年生	2年生	3年生	4年生
1995		38	35	46		61	56	59
1996	58	70	39	18	59	55	65	21
1997	49	27	7	8	60	64	31	13
1998	51	21	11	6	66	21	14	15
1999	16	20	8	12	21	13	11	11
2000	13	14	7	9	16	12	9	10
2001	16	11	9	12	16	12	9	10
2002	7	7	4	10	14	10	7	11
2003	9	7	5		15	11	10	
2004	10	11			13	9		

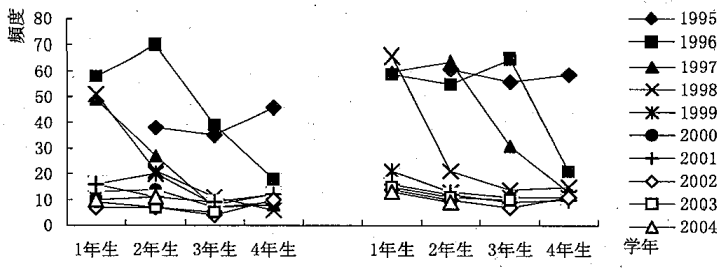

図１．項目35)の在学期間内推移(%)

を示し、やはり３・４年生で半減もしくは１/３にまで減少する。また、1999以降は同年の２年生での20%以外は一桁か10%台の値が維持され、年度や学年による変化は認められない。

学年全体が示す1995年の50%以上の高い出現頻度と比べるとその値は低いが、４年生まで35%以上の値を維持している。そして、「1996年では４年生で、1997年では３年生で、1998年では２年生で、急激な減少に転じる」に関しては、1997年が３年生ではなく２年生の段階で減少に転じるという点が異なる。

すなわち、学年全体が示す規則性とは若干異なるが、ほぼ同じ傾向を示すことが確認できる。

女性は、その規則性をより鮮明に示す。すなわち、1995年は２年生から４年生まで一貫して56%以上の高い出現頻度である。ところが、それは1996年では４年生で21%へ、1997年では３年生で31%へ、1998年では２年生で21%へと減少に転じている。そして、1999年以降は同年１年生の21%を除いたすべての値が16%以下か一桁で、男性と同様に年度や学年による変化は認められない。図１でそうした点が改めて明瞭になる。

性別による差異は、1996年の２年生男性の値が70%と女性のそれを凌駕し、さらに1998年の２年生男性の値が21%で女性のそれと同じ、の２箇所以外はいずれも女性の値のほうが高いことが分かる。1999年以降は若干女性の値が男性の値よりも高い傾向にある。出現頻度全体の平均値は男性が19%、女性のそれが25%であるので若干女性の値の方が高い。

このように性別による差異は一部に見られるものの、男女共に1995年から1998までの４年間と1999年以降の６年間では明らかに出現頻度に相違が認められる。しかも、前者では年度が進むに伴って出現頻度が減少すること、また、そこに

は規則性があり、学年が進むに伴ってそれが顕著になることも確認できる。

次に、３項目35) ５)68)の中から５)いつも体の調子がよい、の結果を抜粋し(表４)、図示する(図２)。

表４より、男性は1995年の２年生38%から徐々に増加して４年生で59%となる。1996年では３年生まで50%以上の高い値を示すが、４年生になると20%へと一挙に半分以下の値となる。1997年では２年生までは43%以上であるが３年生で４%へ、４年生で12%へと急激に値を減少させる。1998年では１年生で51%であるが、２年生からは1999年以降とほぼ同じ20%以下の値となる。また、1999年以降は同年３年生の20%を除いたすべての値が18%以下か一桁で、年度や学年による変化は認められない。

表４．項目５)の在学期間内推移(%)

	男性 1年生	2年生	3年生	4年生	女性 1年生	2年生	3年生	4年生
1995		38	42	59		50	54	62
1996	53	67	50	20	51	51	66	26
1997	43	45	4	12	56	47	29	16
1998	51	14	15	18	62	24	15	23
1999	18	17	20	16	17	15	15	15
2000	13	14	7	9	17	13	10	10
2001	18	14	10	12	17	14	11	11
2002	14	8	4	10	15	12	7	11
2003	15	14	6		16	13	8	
2004	12	8			14	12		

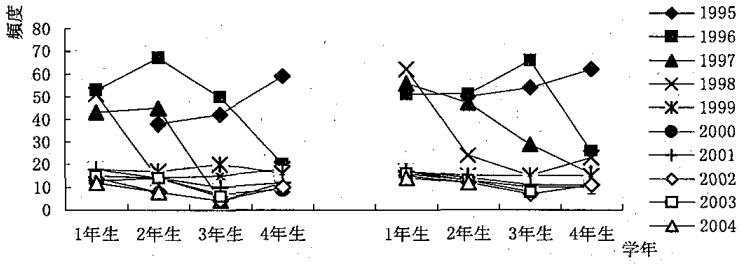

図２．項目５)の在学期間内推移(%)

女性も、1995年は２年生50%から４年生62%へと徐々に増加し、1996年では３年生までは51%以上の値が４年生で26%へと半減し、1997年では２年生までは47%だった値が３年生で29%、４年生で16%へと減少に転じ、1998年には１年生62%の値が２年生から24%、15%、23%へと急激に減少する。そして、1999年以降はすべての値が17%以下か一桁で、男性と同様に年度や学年による変化は認められない。図２でそれらは一層明瞭になる。

性別による差異は、若干女性の値のほうが高い傾向にあるが、出現頻度全体の平均値は男性が22%、女性のそれが25%であるので、ほとんど差のないことが分かる。また、これらのデータも男女共に1995年から1998までの４年間と1999年以降の６年間では明らかに出現頻度に相違が認められる。しかも、前者では年度が進むに伴って出現頻度が減少すること、さらに、そこには規則性があり、学年が進むに伴ってそれが顕著になることも確認できる。

最後に３項目35）５）68）の中から68）人を傷つけるのではないかと気になる、の結果を抜粋し（表５）、図示する（図３）。

表５．項目68）の在学期間内推移（%）

	男性 1年生	2年生	3年生	4年生	女性 1年生	2年生	3年生	4年生
1995		33	21	24		33	31	21
1996	35	47	22	14	46	36	24	11
1997	37	55	14	14	43	24	20	10
1998	46	18	17	6	42	15	6	5
1999	22	24	7	3	24	12	9	4
2000	19	14	7	9	23	13	8	6
2001	26	15	10	6	24	13	9	6
2002	22	17	10	8	24	12	7	5
2003	15	14	4		19	13	10	
2004	24	15			26	22		

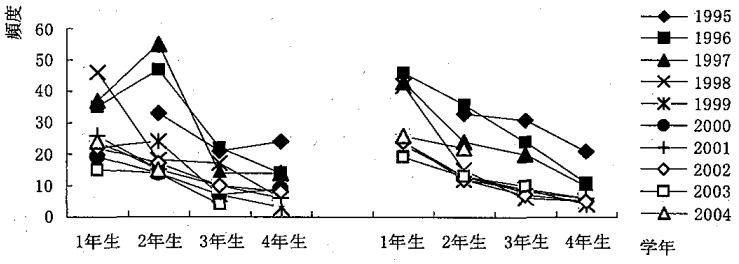

図３．項目68）の在学期間内推移（%）

表５より、男性は1995年の２年生33%から減少し４年生で24%となる。1996年では２年生で一旦47%に増加するが、３年生で22%、４年生で14%へと次第に値を減少させる。1997年も２年生で55%に増加するが、３・４年生では14%へと急激に値を減少させる。1998年では１年生で46%であるのが、２年生からは1999年以降とほぼ同じ18%以下の値となる。また、1999年以降は同年１・２年生、2001年１年生、2002年１年生、2004年１年生が22%以上の比較的高い値を示し、その５箇所以外は３%から19%までの値となる。

女性も、1995年は２年生33%から減少し４年生で21%となる。1996年では１年生46%から４年生11%へと次第に減少する。1997年では１年生43%が２年生で24%とほぼ半減し、４年生では10%となる。1998年も１年生で42%なのだが２年生で15%へと急激に減少し、３・４年生ではわずかに６%と５%となる。そして、1999年以降は１年生で既に1998年までの４年間が示した40%以上の値のほぼ半分の20%台となり、４年生まで徐々に値を減少させている。図３でそれらは一層明瞭になる。

性別による差異は、ほとんどない。すなわち、出現頻度全体の平均値は男性が19%、女性のそれが18%である。また、これらのデータも35）５）ほどクリアではないものの男女共に1995年から1998までの４年間と1999年以降の６年間では出現頻度に相違が認められる。すなわち、クリアではないが、1995年と1996年の２年生で出現頻度が逆転している以外は年度が進むに伴って、また学年が進むに伴って68）の出現頻度は減少する点では同様である。

2］1995年から1998年までの4年間における学生の精神保健の特徴を示唆する2項目20)50)の在学期間内推移について

筆者は、1995年から1998年までの4年間における新入生の精神保健上には上位項目を中心に「気分が明るく、おおむね体の調子はよい。しかし、時として人を傷つけるのではないかと気になる」といった傾向が基調としてあること。さらに、「いつも活動的であり、よく他人に好かれる」と意識もしくは自覚している点も大きな特徴であると指摘した。この内、精神保健上の基調に関しては1］で取り上げ、検討した。そこで、後半部分の精神保健の特徴を指し示す2項目20)いつも活動的である、50)よく他人に好かれる、を取り上げて検討する。

まず、20)いつも活動的である、の結果を抜粋し(表6)、図示する(図4)。

表6．項目20)の在学期間内推移(%)

	男性 1年生	2年生	3年生	4年生	女性 1年生	2年生	3年生	4年生
1995		29	30	49		35	42	27
1996	44	60	39	14	41	41	43	18
1997	33	18	4	8	39	45	24	12
1998	36	12	13	6	43	16	14	15
1999	16	13	13	13	12	11	10	11
2000	15	14	7	8	11	8	8	9
2001	14	10	6	13	10	7	6	9
2002	11	11	5	10	11	7	8	13
2003	11	12	9		14	10	10	
2004	11	11			11	8		

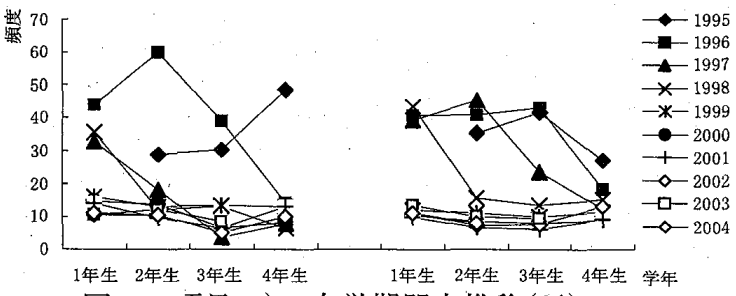

図4．項目20)の在学期間内推移(%)

表6より、男性は1995年の2年生29%から4年生49%へと増加傾向を示す。1996年には1年生から3年生までは39%から60%までの高い値であるが4年生にはそれらが一挙に14%へと1999年以降とほぼ同じ値にまで減少する。1997年と1998年は1年生がそれぞれ33%、36%と比較的高い値を示すが、2年生以降はそれぞれ18%、12%以下へと急激に減少する。また、1999年以降は同年1年生の16%を最高に、それ以降も一様に低い値であり、年度や学年による変化は認められない。

女性は、1995年が2年生35%から4年生27%へと比較的高い値を示す。1996年は、1年生41%から3年生43%まで高い値であるが、4年生では18%と急激な減少を示している。1997年には1年生と2年生まで39%、45%であるが、3年生で24%、4年生で12%と、3年生での大きな減少が認められる。1998年は1年生が43%なのだが、2年生で16%へと激減する。女性は前項1］で確かめ

られた「年度が進むに伴って出現頻度が減少すること、また、学年が進むに伴ってそれが顕著になる」ことをクリアに示している。そして、1999年以降はすべての値が14%以下か一桁で、男性と同様に年度や学年による変化は認められない。図４でそれらは一層明瞭になる

性別による差異は、若干女性の示す値のほうが高い程度で、出現頻度全体の平均値は男性が17%、女性のそれが18%なのでほとんどない。そして、男女共に1995年から1998までの４年間と1999年以降の６年間では明らかに出現頻度に相違が認められる。しかも、前者では年度が進むに伴って出現頻度が減少すること、また、そこには規則性があり、学年が進むに伴ってそれが顕著になることも確認できる。

次に、50)よく他人に好かれる、の結果を抜粋し(表７)、図示する(図５)。

表７．項目50)の在学期間内推移(%)

	男性				女性			
	1年生	2年生	3年生	4年生	1年生	2年生	3年生	4年生
1995		22	23	38		26	29	37
1996	29	33	11	14	36	31	39	10
1997	21	18	4	4	33	32	14	8
1998	25	5	7	2	35	5	7	7
1999	10	7	7	5	6	4	3	3
2000	4	4	3	4	5	2	2	4
2001	6	5	4	5	3	3	1	5
2002	5	5	1	4	6	3	2	3
2003	3	3	0		3	2	3	
2004	2	7			5	4		

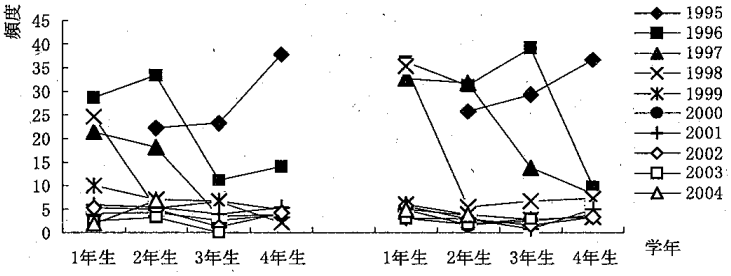

図５．項目50)の在学期間内推移(%)

表７より、男性は1995年の２年生22%から４年生38%へと増加傾向を示す。1996年には１年生と２年生で29%と33%と高い値であるが３年生には11%と1/3にまで減少し、４年生でも14%と低い値である。1997年では１年生21%、２年生18%と比較的高い値であるが、３・４年生ではいずれも４%と1/4から1/5にまで減少する。1998年は１年生でこそ25%の高い値を示すが、既に２年生で５%と1/5の値であり、３・４年生も一桁の値である。すなわち、「年度が進むに伴って出現頻度が減少すること、また、学年が進むに伴ってそれが顕著になる」ことを比較的明瞭に示している。また、1999年以降は同年１年生の10%を最高値に、それ以降も一様に低い値であり、年度や学年による変化は認められない。

女性は、1995年が２年生26%から４年生37%へと増加傾向を示す。1996年

は、１年生36%から３年生39%まで高い値であるが、４年生では10%と急激な減少を示している。1997年には１年生と２年生まで33%、32%であるが、３年生で14%、４年生で８%と、３年生での急激な減少が認められる。1998年は１年生が35%だが、２年生で５%へと激減する。女性も「年度が進むに伴って出現頻度が減少すること、また、学年が進むに伴ってそれが顕著になる」ことをクリアに示している。そして、1999年以降はすべての値が６%以下で、男性と同様に年度や学年による変化は認められない。図５でそれらは一層明瞭になる。

性別による差異は、ほとんどない。すなわち、出現頻度全体の平均値は男性が10%、女性のそれが12%である。また、男女共に1995年から1998までの４年間と1999年以降の６年間では出現頻度に相違が認められる。ただ先に挙げたように女性では1995年から1998までの４年間にクリアな規則性を示すが、男性はそれほどクリアではない点で異なっている。

１]と２]より

筆者が指摘してきた『1995年から1998年までの４年間における新入生の精神保健上には上位項目を中心に「気分が明るく、おおむね体の調子はよい。しかし、時として人を傷つけるのではないかと気になる」といった傾向が基調としてあり、「いつも活動的であり、よく他人に好かれる」と意識もしくは自覚しているとの特徴は、１年生から４年生まで一貫して維持されるのではなく、その程度は年度が進むに伴って減少する。また、学年が進むに伴ってそれが顕著になる』という点は、性別により相違が見られる部分もあるが、基本的には男女共に認められることが判明した。さらに、その４年間と1999年以降の６年間では出現頻度に相違が認められ、そこでも性別による差異はないことが分かる。

３］1999年から2004年までの６年間における学生の精神保健の特徴を示唆する３項目18)15)22)の在学期間内推移について

筆者は、『1999年から2004年までの６年間における新入生の精神保健上の基調としては「首筋や肩がこり、気疲れする。しかも、気分に波があり、すぎる」があり、かつ「人を傷つけるのではないかと気になり、ものごとに自信がもて

ない」などに象徴されよう。全体として、自分を否定的に受け止めていると推測してよいのではなかろうか。また、1995年から1998年までの４年間と比較すると、18)首筋や肩がこる、48)めまいや立ちくらみがする、に代表される身体面への否定的な意識もしくは自覚が前面(UPI上位10項目)に出てきているという点が特徴として挙げられる』と指摘した(中藤、2004)。

そこで、これら３項目18)首筋や肩がこる、15)気分に波がありすぎる、22)気疲れする、の在学期間内推移を取り上げる。

まず３項目18)15) 22)の中から18)首筋や肩がこる、の結果を抜粋し(表８)、図示する(図６)。

表８．項目18)の在学期間内推移(%)

	男性 1年生	2年生	3年生	4年生	女性 1年生	2年生	3年生	4年生
1995		24	21	16		40	43	44
1996	32	40	28	34	40	36	43	38
1997	19	18	25	30	43	52	48	44
1998	33	26	26	25	44	37	36	33
1999	19	37	22	15	45	39	37	37
2000	28	18	20	13	41	40	38	37
2001	18	18	13	12	42	40	40	39
2002	26	22	17	16	40	36	34	37
2003	22	15	21		39	37	33	
2004	19	13			37	34		

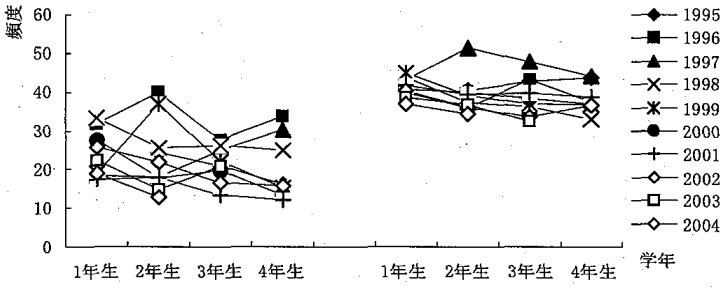

図６．項目18)の在学期間内推移(%)

表８より、上記１］２］で1995年から1998年までの４年間で認められた年度や学年による規則性は、男女ともに見られないことが分かる。

男性は、１年生では2001年の18%から1998年の33%まで、２年生は2004年の13%から1996年の40%まで、３年生は2001年の13%から1996年の28%まで、４年生は2001年の12%から1996年の34%まで、の間にあって1996年から1998年の３年間がどちらかといえば高い値であるが、先に挙げた規則性や前半の４年間と後半の６年間との間に明確な差異はなく、ほぼ一定の値を維持している。

女性も、１年生では2004年の37%から1999年の45%まで、２年生は2004年の34%から1997年の52%まで、３年生は2003年の33%から1997年の48%まで、４年生は1998年の33%から1995年と1997年の44%まで、の間にあってそこに規則性や前半の４年間と後半の６年間との間に明確な差異はなく、男性と同様にほぼ一定の値を維持している。図６でそれらは一層明瞭になる。

但し、年度や学年による規則性は、男女ともに認められないが、性別による

差異は存在する。図６で明らかのように、女性の値は男性のそれよりも概して高い値を示す。僅かに1996年２年生男性が40%の１箇所のみが例外であり、出現頻度全体の平均値は男性が22%、女性のそれが39%であるので明らかに女性の値の方が高い。

次に、３項目18)15) 22)の中から15)気分に波がありすぎる、の結果を抜粋し(表９)、図示する(図７)。

表９．項目15)の在学期間内推移(%)

	男性 1年生	2年生	3年生	4年生	女性 1年生	2年生	3年生	4年生
1995		44	33	32		35	34	19
1996	26	30	33	15	38	22	19	15
1997	27	45	32	20	36	26	22	19
1998	29	29	21	15	28	19	16	13
1999	30	28	18	12	27	20	16	11
2000	26	25	17	17	26	22	19	13
2001	22	22	20	14	27	23	18	14
2002	29	23	19	14	25	23	15	12
2003	23	20	13		28	23	18	
2004	27	18			28	26		

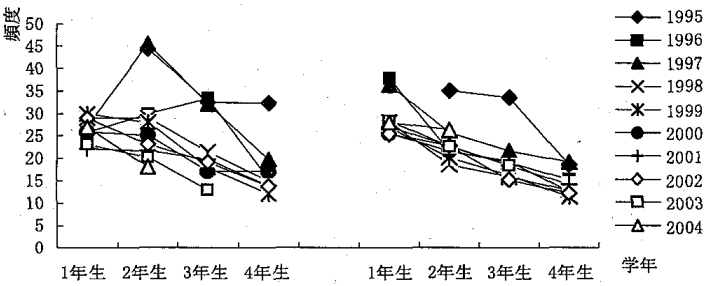

図７．項目15)の在学期間内推移(%)

表９でも、男性で1995年、1996年、1997年の値が他より若干高く、女性で1995年が同様の傾向にあるが、１］２］で1995年から1998年までの４年間で認められた年度や学年による規則性は、男女ともに見られない。

男性は、１年生では2001年の22%から1999年の30%まで、２年生は2004年の18%から1997年の45%まで、３年生は2003年の13%から1995年と1996年の33%まで、４年生は1999年の12%から1995年の32%までの間にあって緩やかな減少傾向を示す。

女性はさらに学年による変動が少なく、１年生では2002年の25%から1996年の38%まで、２年生は1998年の19%から1995年の35%まで、３年生は2002年の15%から1995年の34%まで、４年生は1999年の11%から1995年と1997年の19%まで、の間にあってそこには規則性や前半の４年間と後半の６年間との間に明確な差異はなく、男性と同様に緩やかな減少傾向を示す。図７でそれらは一層明瞭になる。

そして、性別による差異は、18)ではあったが、15)では出現頻度全体の平均値は男性が24%、女性のそれが22%なのでないといえる。

最後に３項目18)15)22)の中から22)気疲れする、の結果を抜粋し(表10)、図

示する(図８)。

表10. 項目22)の在学期間内推移(%)

	男性 1年生	2年生	3年生	4年生	女性 1年生	2年生	3年生	4年生
1995		29	28	22		36	32	27
1996	38	30	39	25	38	31	22	17
1997	34	55	39	18	37	29	27	16
1998	30	24	22	21	35	21	18	13
1999	20	27	19	12	30	21	17	14
2000	22	21	15	15	27	24	21	14
2001	19	16	13	14	29	24	19	15
2002	21	23	17	14	28	20	16	15
2003	17	20	10		27	21	19	
2004	18	18			33	27		

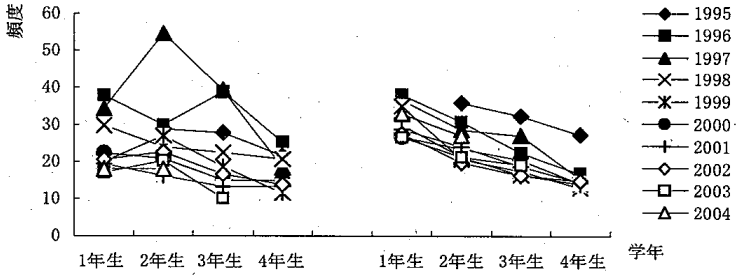

図８．項目22)の在学期間内推移(%)

表10でも、15)と同じ傾向が見られる。すなわち、男性で1995年、1996年、1997年の値が他より若干高く、女性で1995年が同様の傾向にある点が認められるが、1］2］で1995年から1998年までの４年間で認められた年度や学年による規則性は、男女ともに見られない。

男性は、１年生では2003年の17%から1996年の38%まで、２年生は2001年の16%から1997年の55%まで、３年生は2003年の10%から1996年と1997年の39%まで、４年生は2001年と2002年の14%から1996年の25%まで、の間にあって緩やかな減少傾向を示す。

女性はさらに学年による変動が少なく、１年生では2000年と2003年の27%から1996年の38%まで、２年生は2002年の20%から1995年の36%まで、３年生は2002年の16%から1995年の32%まで、４年生は1998年の13%から1995年の27%まで、の間にあってそこには規則性や前半の４年間と後半の６年間との間に明確な差異はなく、男性と同様に緩やかな減少傾向を示す。図８でそれらは一層明瞭になる。

そして、性別による差異は、ほとんどない。すなわち、出現頻度全体の平均値は男性が23%、女性のそれが24%である。

３］より

１］２］で検討した３項目35)５)68)と２項目20)50)では認められた1995年から1998年までの４年間での年度や学年による規則性は、３］で検討した３項目18)首筋や肩がこる、15)気分に波がありすぎる、22)気疲れする、では男女とも

に認められない。また、18)と15)22)とでは出現頻度の傾向が異なることも判明した。すなわち、18)は4年間ほぼ一定の値が維持されるのに対し、15)22)は減少傾向を示す。そして、それは男女ともに生起している点も確認できる。さらに、性別に関しては、18)と15)22)とでは異なる点も確認できる。15)22)には性別にかかわらずほぼ等しい値であるのに対し、18)は明らかに男性よりも女性の値が高い。すなわち、18)首筋や肩がこる、は女性に特有の反応であることが窺える。

4］上記以外に学生の精神保健上の特徴を示唆する項目の在学期間内推移について

これまで1］から3］で検討した項目は、35)気分が明るい、5)いつも体の調子がよい、68)人を傷つけるのではないかと気になる、がUPI上位3項目であり、1995年から1998年までの4年間の1年生の40%以上が意識もしくは自覚(肯定)していることから取り上げた。また、20)いつも活動的である、50)よく他人に好かれる、は1999年から2004年までの6年間における1年生と比較し、1995年から1998年までの4年間における1年生の精神保健を特徴づける項目である。

さらに、18)首筋や肩がこる、15)気分に波がありすぎる、22)気疲れする、の3項目は1998年までの4年間の1年生ではUPIで4位以下なのだが、1999年から2004年までの6年間では上位3項目を占めるようになることから取り上げた。

これらの8項目は、UPIの上位3項目である、あるいは1998年までの4年間と1999年以降の6年間とを比較して前者の特徴を示唆する項目である。

しかし、改めて表2から性別ごとのUPI上位3項目のデータのみを取り上げて、1］から3］で検討した項目以外を太線で表す(表11)と、8項目以外で上位3位以内に位置する項目が見られる。例えば、1995年の2年生男性では項目45)とりこし苦労する、52)自分のやったことを、確かめずにはいられない、が44%、40%で2位、3位に位置する。女性にはそうした項目は男性ほど多くはないが、例えば、1997年の3年生では項目27)記憶力が低下している、が30%で

3位に位置する。

4位以下ではさらに項目は増えるが、ここでは上位3位以内に位置する項目は、上記の8項目についで学生の精神保健の特徴を示唆し、重要であると考えられるので、それらを取り上げて在学期間内推移を検討する。

表11．性別ごとのUPI上位3項目

	男性 1年生 項目	%	2年生 項目	%	3年生 項目	%	4年生 項目	%	女性 1年生 項目	%	2年生 項目	%	3年生 項目	%	4年生 項目	%
1995			15	44	28	47	5	59			35	61	35	56	5	62
			45	44	5	42	20	49			5	50	5	54	35	59
			52	40	6	42	35	46			18	40	18	43	18	44
1996	35	58	35	70	52	56	27	35	35	59	35	55	5	66	18	38
	5	53	5	67	5	50	18	34	5	51	5	51	35	65	5	26
	20	44	20	60	45	50	28	30	68	46	20	41	18	43	35	21
1997	35	49	13	55	22	39	18	30	35	60	35	64	18	48	18	44
	5	43	22	55	13	32	13	21	5	56	18	52	35	31	27	23
	68	37	52	55	15	32	15	20	18	43	5	47	27	30	48	20
1998	5	51	15	29	18	26	18	25	35	66	18	37	18	36	18	33
	35	51	28	27	27	23	22	21	5	62	5	24	27	19	5	23
	68	46	18	26	22	22	46	19	18	44	27	21	22	18	27	17
1999	15	30	18	37	18	22	5	16	18	45	18	39	18	37	18	37
	13	25	15	28	5	20	9	16	22	30	27	25	27	18	27	22
	52	22	22	27	22	19	18	15	48	28	22	21	48	17	5	15
2000	18	28	15	25	27	25	9	17	18	41	18	40	18	38	18	37
	27	27	27	22	12	21	15	17	22	27	22	24	27	24	27	19
	15	26	12	22	46	21	27	17	15	26	48	23	22	21	12	15
2001	68	26	12	23	15	20	27	17	18	42	18	40	18	40	18	39
	15	22	15	22	27	18	36	15	48	31	22	24	27	22	27	21
	13	21	18	18	28	16	9	15	22	29	27	24	22	19	12	16
2002	15	29	12	26	12	22	27	17	18	40	18	36	18	34	18	37
	18	26	28	24	15	19	18	16	48	28	27	24	27	20	27	18
	12	25	15	23	27	19	28	15	22	28	15	23	22	16	22	15
2003	15	23	12	24	18	21			18	39	18	37	18	33		
	18	22	27	21	12	17			15	28	27	23	23	20		
	52	21	15	20	27	17			48	28	15	23	22	19		
2004	12	27	46	22					18	37	18	34				
	15	27	15	18					22	33	22	27				
	52	25	22	18					15	28	15	26				

そこで、項目ごとの出現頻度を1］から3］で検討した8項目とそれ以外の項目とにまとめて示す(表12)。

表12より、1］から3］で検討した8項目以外に上位3項目に位置する項目には、27)記憶力が低下している、を始め12項目あり、男女で合計75箇所を占めていることが分かる。そして、男性は27)記憶力が低下している、が12箇所に、12)やる気が出てこない、が9箇所に、28)根気が続かない、と52)自分のやったことを、確かめずにはいられない、が共に6箇所に、13)悲観的になる、が5箇所に、それらに続き9)と46)が3箇所、45)が2箇所、6)と36)が1箇所に、全体では48箇所に出現する。1995年2年生から2004年2年生までのUPIにおけ

表12. UPI上位3項目の出現頻度

1]から3]で検討した項目

項目	男性	女性	計
35	5	11	16
5	9	13	22
68	3	1	4
20	3	1	4
50	0	0	0
18	14	34	48
15	19	6	25
22	7	15	22
計	60	81	141

4]で検討する項目

項目	男性	女性	計
27	12	17	29
12	9	2	11
48	0	7	7
28	6	0	6
52	6	0	6
13	5	0	5
9	3	0	3
46	3	0	3
45	2	0	2
6	1	0	1
23	0	1	1
36	1	0	1
計	48	27	75

る男性上位3項目は108箇所なので48/108と44%を占めることになる。

他方、女性は27)記憶力が低下している、が17箇所に、48)めまいや立ちくらみがする、が7箇所に、12)やる気が出てこない、が2箇所に、23)が1箇所に出現するのみである。全体では4項目が27箇所に出現する。男性と同様にUPIにおける女性上位3項目は108箇所なので27/108と25%を占めることになる。

27)は男性12箇所、女性17箇所で計27箇所を占め、精神保健の特徴を検討する上で1］から3］で取り上げた8項目と同程度の重要性を秘めていることが窺える。また、12)も男性9箇所、女性2箇所の計11箇所を占め、27)ほどではないが同様のことがいえる。

その2項目以外は48)が女性のみに、28)52)が男性のみに認められるなど、性別により差が見られる。1］から3］では、わずかに項目18)首筋や肩がこる、が女性に特有の反応であることを示唆する以外は性別による差異はほとんど見られなかったことからすれば対照的である。

そこで、4］では男女に共通して見られる27)と12)、そして一方のみに見られて比較的出現頻度が高い48)と28)52)の5項目それぞれの在学期間内推移を検討する。

1)男女に共通して見られる27)と12)について

27)と12)の結果を図表に示す(表13と図9)。

表13．項目27)と12)の在学期間内推移(%)

27)

	男性 1年生	2年生	3年生	4年生	女性 1年生	2年生	3年生	4年生
1995		31	40	27		36	31	31
1996	30	40	17	35	28	26	26	20
1997	26	18	32	17	28	23	30	23
1998	23	23	23	17	32	21	19	17
1999	13	22	13	13	25	25	18	22
2000	27	22	25	17	21	23	24	19
2001	19	17	18	17	24	24	22	21
2002	21	22	19	17	25	24	20	18
2003	16	21	17		26	23	19	
2004	19	17			22	23		

12)

	男性 1年生	2年生	3年生	4年生	女性 1年生	2年生	3年生	4年生
1995		31	28	30		23	17	17
1996	17	20	28	23	25	15	13	16
1997	24	36	29	18	21	14	15	15
1998	23	24	18	12	18	18	12	12
1999	16	18	14	11	18	16	14	15
2000	21	22	21	14	16	17	15	15
2001	16	23	13	14	18	18	15	16
2002	25	26	22	13	20	19	16	15
2003	18	24	17		23	22	17	
2004	27	17			21	25		

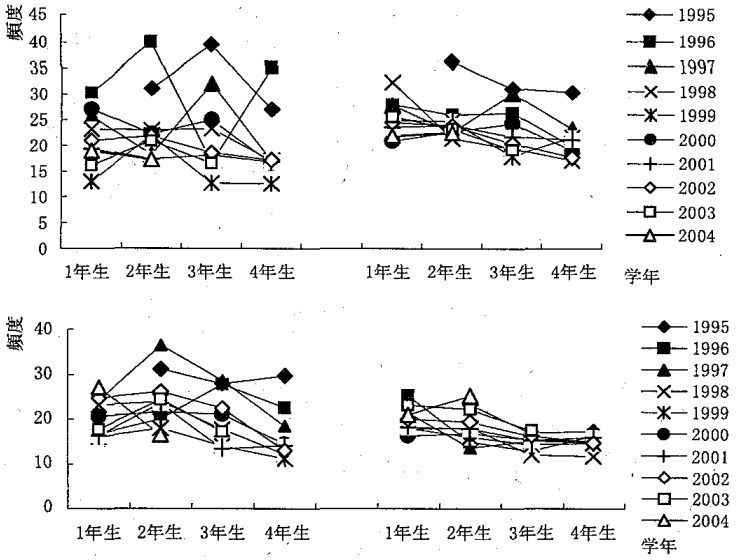

図９．項目27)と12)の在学期間内推移(%)

表13より、27)は男性の１年生では2003年の16%から1996年の30%まで、２年生は2001年と2004年の17%から1996年の40%まで、３年生は1999年の13%から1995年の40%まで、４年生は1999年の13%から1996年の35%まで、の間にあって1995年から1997年の２年間が比較的高い値であるが、そこには規則性や前半の４年間と後半の６年間との間に明確な差異はない。

女性は男性よりもその傾向が一層顕著で、１年生では2000年の21%から1998年の32%まで、２年生は1998年の21%から1995年の36%まで、３年生は1999年の18%から1995年の31%まで、４年生は1998年の17%から1995年の31%まで、の間にあってそこに規則性や前半の４年間と後半の６年間との間に明確な差異はなく、1995年以外はほぼ一定の値を維持している。図９でそれらは一層明瞭になる。また、性別による差異は、男性が年度によるデータの変動が大きいものの出現頻度全体の平均値は22%、女性のそれが24%なのでほとんどない。

また、12)は男性１年生では1999年と2001年の16%から2004年の27%まで、２年生は2004年の17%から1997年の36%まで、３年生は2001年の13%から1997年の29%まで、４年生は1999年の11%から1995年の30%まで、の間にあって1995年から1997年の２年間が比較的高い値であるが、そこには規則性や前半の４年間と後半の６年間との間に明確な差異はない。

女性は男性よりもその傾向が一層顕著なことは27)と同様である。１年生で

は2000年の16%から1996年の25%まで、2年生は1997年の14%から2004年の25%まで、3年生は1998年の12%から1995年と2003年の17%まで、4年生は1998年の12%から1995年の17%まで、の間にあってそこに規則性や前半の4年間と後半の6年間との間に明確な差異はなく、ほぼ一定の値を維持している。図9でそれらは一層明瞭になる。また、性別による差異は、12)でも男性の年度によるデータの変動が大きいもののの出現頻度全体の平均値は21%、女性のそれが17%なのでほとんどない。

2)男女のどちらか一方のみに見られる48)と28)52)について

48)と28)52)の結果を図表に示す(表14と図10)。

表14. 項目48)と28)52)の在学期間内推移(%)

48) 男性

	1年生	2年生	3年生	4年生
1995		9	12	8
1996	15	20	22	10
1997	19	9	7	3
1998	26	15	15	6
1999	14	24	7	7
2000	16	12	8	4
2001	21	13	6	6
2002	24	24	19	15
2003	11	11	8	
2004	16	10		

女性

1年生	2年生	3年生	4年生
	25	22	25
32	26	20	18
31	24	24	20
32	20	17	11
28	19	17	12
25	23	16	12
31	22	17	14
21	17	14	12
28	16	15	
28	16		

28) 男性

	1年生	2年生	3年生	4年生
1995		38	47	35
1996	30	30	33	30
1997	30	27	21	20
1998	25	27	13	9
1999	20	20	13	13
2000	23	19	20	10
2001	19	14	16	12
2002	24	24	19	15
2003	21	17	13	
2004	22	15		

女性

1年生	2年生	3年生	4年生
	32	28	23
37	28	21	15
35	21	19	18
32	19	14	7
21	19	11	8
20	16	13	11
22	21	17	12
21	17	14	12
20	18	15	
20	22		

52) 男性

	1年生	2年生	3年生	4年生
1995		40	40	24
1996	39	37	56	15
1997	27	55	14	12
1998	38	22	19	11
1999	22	15	7	5
2000	24	13	13	9
2001	20	18	16	10
2002	18	18	10	7
2003	21	14	9	
2004	25	13		

女性

1年生	2年生	3年生	4年生
	24	22	20
31	27	16	8
32	33	17	10
28	11	7	7
12	8	6	6
16	8	7	5
15	11	9	6
14	10	6	6
13	11	7	
14	10		

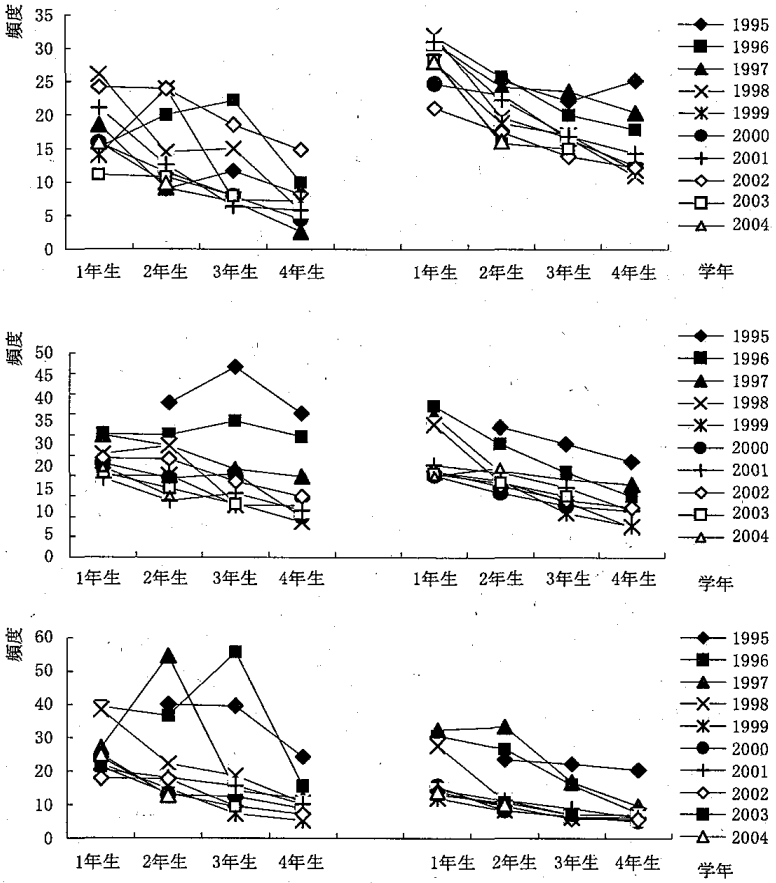

図10. 項目48)と28)52)の在学期間内推移(%)

表14より、48)は男性の1年生では2003年の11%から1998年の26%まで、2年生は1995年と1997年の9%から1999年と2002年の24%まで、3年生は2001年の6%から1996年の22%まで、4年生は1997年の3%から2002年の15%まで、の

間にあって女性よりもデータの変動が大きいものの学年が進むに伴い減少傾向を示す。また、そこには規則性や前半の４年間と後半の６年間との間に明確な差異はない。

他方、女性は１年生では2002年の21％から1996年と1998年の32％まで、２年生は2003年と2004年の16％から1996年の26％まで、３年生は2002年の14％から1997年の24％まで、４年生は1998年の11％から1995年の25％まで、の間にあって男性に比べ値が大きい。また、そこに規則性や前半の４年間と後半の６年間との間に明確な差異はなく、学年が進むに伴い減少傾向を示す。

図10でそれらは一層明瞭になる。さらに、性別による差異は、男女共に減少傾向を示すが、男性の出現頻度全体の平均値は13％であり、女性のそれは21％であるので、男性よりも女性の出現頻度の高いことがより明確になる。

また、28)は男性１年生では2001年の19％から1996年と1997年の30％まで、２年生は2001の14％から1995年の38％まで、３年生は1998年と1999年、2003年の13％から1995年の47％まで、４年生は1998年の９％から1995年の35％まで、の間にあってやはり女性よりもデータの変動が大きく、1995年と1997年の２年間が比較的高い値であるが、そこには規則性や前半の４年間と後半の６年間との間に明確な差異はなく緩やかな減少傾向を示す。

女性は男性よりもその傾向を顕著に示す。１年生では2000年と2003年、2004年の20％から1996年の37％まで、２年生は2000年の16％から1995年の32％まで、３年生は1999年の11％から1995年の28％まで、４年生は1998年の７％から1995年の23％まで、の間にあってそこに規則性や前半の４年間と後半の６年間との間に明確な差異はなく、緩やかな減少傾向を示す。図10でそれらは一層明瞭になる。また、性別による差異は、男性の出現頻度全体の平均値が22％、女性のそれが19％なのでほとんどない。

そして、52)は男性１年生では2002年の18％から1996年の39％まで、２年生は2000年と2004年の13％から1997年の55％まで、３年生は1999年の７％から1996年の56％まで、４年生は1999年の５％から1995年の24％まで、の間にあって女性よりもデータの変動が大きく、全体に減少傾向を示している。また1995年から1998年までの４年間が比較的高い値を示し、その間に明瞭な規則性を示して

はいないが、前半の４年間と後半の６年間との間に差異があるようにも見える。

女性は、１年生では1999年の12%から1997年の32%まで、２年生は1999年と2000年の８%から1997年の33%まで、３年生は1999年と2002年の６%から1995年の22%まで、４年生は2000年の５%から1995年の20%まで、の間にあって男性に比べて変動が少なく、緩やかな減少傾向を示す。また、男性と同様に1995年から1998年までの４年間が比較的高い値を示し、その間に明瞭な規則性を示してはいないが、前半の４年間と後半の６年間との間に差異があるようにも見える。

図10でそれらは一層明瞭になる。また、性別による差異は、男性の出現頻度全体の平均値が21%、女性のそれが14%なので、女性よりも男性の出現頻度の高いことが分かる。

４］より

１］から３］で検討した項目についで学生の精神保健の特徴を示唆し、重要であると考えられる５項目を男女に共通して見られる項目と、一方のみに見られて比較的出現頻度が高い項目に分けて分析を行った。男性のデータは回答者数が少ないために変動が大きく、その点に注意が必要だが、それぞれの項目で特徴的な傾向が認められ、その検討・分析は１］から３］で得られた結果を補足することが期待される。

本論文では、1995年から導入したUPIのデータを取り上げて、本学学生の精神保健の傾向および特徴を性別により検討・考察してきた。

１］から３］では８項目を取り上げて分析を行った。その結果、『1995年から1998年までの４年間における１年生（新入生）の精神保健の傾向および特徴を指し示す項目は、一定の規則性を示しながら1999年から2004年までの６年間の水準にまで減少することが判明した。そして、彼らの精神保健の傾向および特徴は、１年生から４年生まで一貫して維持されるのではなく、その程度は年度が進むに伴って減少する。また、学年が進むに伴ってそれが顕著になることを

示唆している。他方、1999年から2004年までの６年間における１年生のそれは、変動が少なく、安定している』に関しては、基本的には男女共に認められることが判明した。また、性別に関しては、８項目の中で18)首筋や肩がこる、のみが女性に特有の反応であることが示唆された。

４］ではさらに５項目を取り上げて分析を行った。その結果、本学学生の精神保健の傾向および特徴を検討・考察する上で１］から３］で得られた結果を補足するに足る興味深い諸点が浮かび上がった。

今後はこうした諸点および学部ごとの相違を分析することと、本学学生を含めた現代の若者一般についての分析 - たとえば、大学生という青年期に獲得することが求められる「自我同一性」や「アイデンティティ」の確立(Erikson、1959; 村瀬、1995)といった視点- が課題として挙がる。

付記：本研究を進めるにあたって、本学保健師の松井惠子専門員、小川百合子専門員、林里枝専門員、そして下岸誠子専門員には資料の閲覧、助言などについて大変お世話になりました。記して深謝致します。

文献

１）中藤淳;2002　愛知県立大学における精神保健の現状と課題（１）―学生相談の資料を中心に―.　愛知県立大学文学部論集、第51号、pp.1-14.

２）中藤淳;2004　愛知県立大学における精神保健の現状と課題（２）―健康調査カード(UPI)による新入生のデータ―.　愛知県立大学文学部論集、第53号、pp.129-148.

３）中藤淳;2005　愛知県立大学における精神保健の現状と課題（３）―健康調査カード(UPI)による在学生のデータ―.　愛知県立大学文学部論集、第54号、pp.77-98.

４）Erikson、E.H.;1959　Identity and the life cycle. International Universities Press.（小此木啓吾訳　1973　自我同一性.　誠信書房）.

５）村瀬孝雄;1995　アイデンティティー論考.　誠信書房.